

# タイ研修旅行

11月21～24日 於 タイ

(有)飛永製作所 飛永 敏博

研修旅行に参加されたみなさま4日間お疲れさまでした。

長いようで短かった研修旅行でしたが参加されたみなさんに昨日電話をして元気に仕事をしていることが確認できずはひと安心しています。

さて、最初に会社見学をさせていただいた「オムロン自動車電子部品工場」様はアユタヤにあり、バイクのスタータリレー、自動車のパワーウィンドウSW、エアコン温度センサーの製造と組立てをされている会社です。従業員は110名で平均給料は約3500バーツ(日本円で約1万円)。日本で同じモノづくりする場合の約1/20の人件費であり、量産品の製造、組立てが海外に移管されるのも理解できます。「言われたことを言われたとおりに忠実に守って仕事をする」のがタイ人の特徴であるとのことで量産品の製造、組立てはタイには向いているらしい。

次に訪問した「ホンダ タイ工場」様もアユタヤにあり「需要のあるところで生産する」という戦略をとられていました。ここではエンジン部品の製造から完成車の組立てまでを一貫してされています。自動車と家が同じ価格には聞き驚きましたが、バンコク市内の自家用車は、やはりホンダ車が目立ちました。480台/日という生産量は日本の鈴鹿工場とほぼ同じペースでの生産だそうです。

翌日訪問した「T.I.Tエレクトロニクス」様は1994年日本が好景気の時にタイで事業を始められた日系のマグネットコイル製造・組立ての量産をされている会社。こちらでは徹底した管理(人を管理するための管理ではなく利益を生み出すための管理)をされていました。量産で利益を出すために機械の稼働率を高める方法として全自動の製造ラインをあえて半自動化し人の手を加えるという独自の生産技術で差別化をとられていました。

景気の波に関係なく発注企業から必要とされる「オンリーワン企業を目指している」とおっしゃる会長のモノづくりに対する発想に刺激を受けました。

研修旅行に参加されたみんなはどんな感想を持たれたのでしょうか？

